

カーボンニュートラル 無垢材活用の会 概要

林野庁 建築物に利用した木材に係わる炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン 準拠

設立日:2022年2月2日

年会費:50,000円／年

ウイング株式会社
株式会社関西ウイング
北関東ウイング株式会社



川上から川下の「サプライチェーン構築」で脱炭素時代に「TEAM」でアプローチ。

- 3 活動**
- 1)無垢材活用促進
 - 2)サステナブルな植林活動
 - 3)カーボンニュートラル見える化



1)無垢材活用促進

①ツーバイフォーのSDGs時代の適合性を活かす。



②ツーバイフォー住宅「構造材設計」の無駄削減

川上(伐採・製材)ニーズの把握

川上(伐採・製材)優位性を活かす設計

格付外材、Non JAS材の活用提案

構造設計ルールの統一化・画一化

※少材種構成を極める

2)サステナブルな植林活動

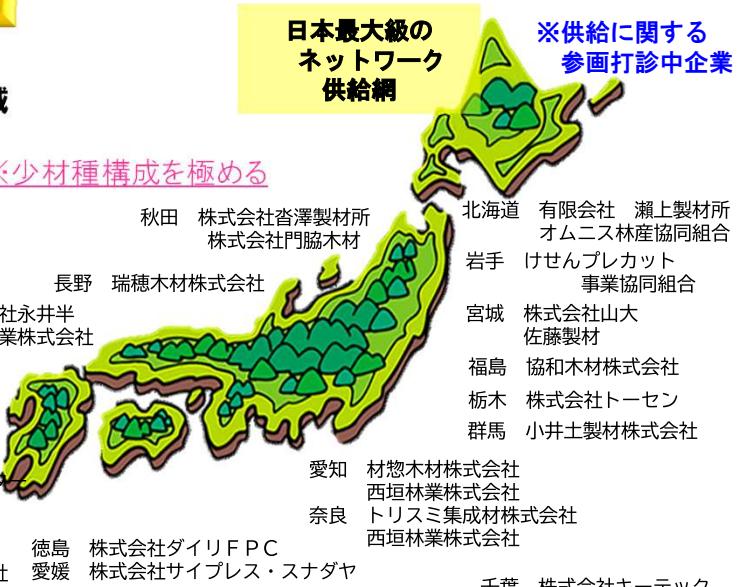
サステナブルな植林活動

への策を

「Team」で模索

「植林支援」
↓
「植林実績」

福岡 マルカ木材株式会社
熊本 株式会社松島木材センター
佐賀 中国木材株式会社
鹿児島 株式会社さつま
ファインウッド
MEC Industry株式会社
山佐木材株式会社



3)カーボンニュートラル 見える化

「炭素貯蔵量」表示

建築物利用
木材に係わる
「炭素貯蔵量」
表示に関する
ガイドライン
(農林水産省)

CO2(東京都CO200,000)に利用した木材に係わる炭素貯蔵量(CO2換算)					
延べ面積	木材の利用量	木材の共通貯蔵量(CO2換算)	木材全体の利用量	木材全体の炭素貯蔵量(CO2換算)	
1,000 m ²	400 m ²	273 tCO ₂	400 m ²	273 tCO ₂	

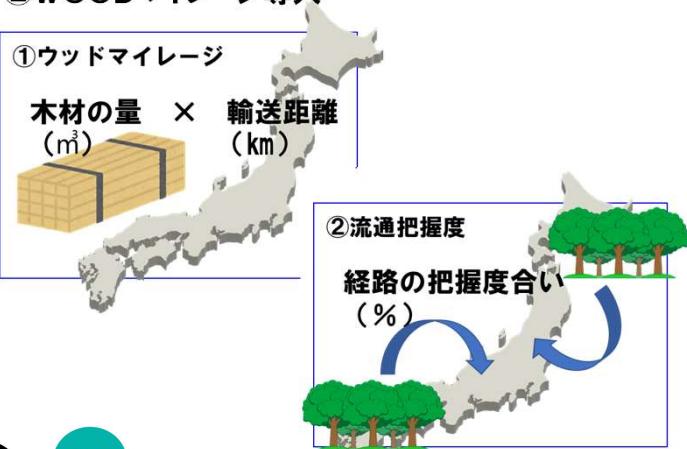
この表示は、林野庁「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」(令和3年10月1日付け第3号)に基づいています。この建築物に利用した木材が貯蔵している炭素(CO₂換算)の量を示すものです。木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を建築物に利用していくことは、「都市圏における第2の森林づくり」としてカーボンニュートラルへの貢献が期待されています。

計算式
木材の材積(m³) × 実積(m²) × 炭素含有率 × 44/12 = 炭素貯蔵量(CO₂換算)
計算のイメージ
○ 通常材(樹脂) 斜ギ 240m² × 0.33t/m² × 0.50 × 44/12 = 145.6 tCO₂
○ 下材(樹脂) 斜ギ 80m² × 0.33t/m² × 0.50 × 44/12 = 48.5 tCO₂
○ 構造合板 斜ギ 80m² × 0.54t/m² × 0.83 × 44/12 = 78.4 tCO₂
合計 273 tCO₂
(責任者名)〇〇〇〇 (連絡先) TEL:〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

②WOODマイレージ導入

①ウッドマイレージ

木材の量 (m³) × 輸送距離 (km)



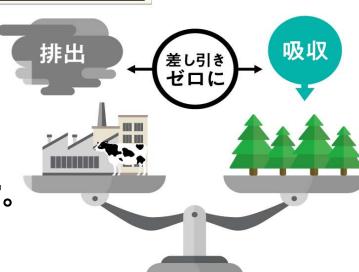
②流通把握度

経路の把握度合い (%)

③Jクレジット制度の検討

省エネ・再エネ設備の導入や森林管理による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度。

経済産業省・環境省・農林水産省運営。



「Team」で
制度への提案や検討を行う。